

障害児の衣服の着脱に関する支援を目的とした布絵本の開発

Development of the cloth picture-book aiming at the support about attachment and detachment of a handicapped child's clothes

(2) 評価表を用いて分析した布絵本の効用

The use of the cloth picture-book analyzed using the evaluation table

浅野めぐみ*・夫馬佳代子*・渡邊雄介**

Asano Megumi, Fuma Kayoko and Watanabe Yusuke

*岐阜大学大学院教育学研究科家政教育専修

**あじろ診療所ひめゆり療育センター

1. はじめに

本研究は、「障害児の衣服の着脱に関する支援を目的とした布絵本の開発（1）布絵本の制作」の継続研究である。

障害児の衣服の着脱に関する支援については、内藤（2007）が、障害のある子ども達にとって衣服の着脱が難しい活動であっても、遊びながら手指の操作を楽しく行うことが出来るようになるとよいと考え、楽しく遊びながら手・指を使う教材として「らいおんマット」を開発した¹⁾。また、水谷ら（2009）は、「感覚経験を豊かにする布絵本」と「手指の巧緻性を高めるための布絵本」を開発し、その教育的効用について明らかにした²⁾。

しかし、これらの研究において対象児の教材、布絵本の効用についての様子を分析する過程において個人の主観による判断にゆだねられる傾向が見られた。観察者によって客観的な分析を行うことができれば、今後の支援や課題の解決に有効なものになるのではないかと考えた。

そこで、本研究では、布絵本の活用実践に数値を用いた評価表を作成し、その結果をより客観的に分析したので報告する。

2. 研究方法

(1) 実践期間及び実践場所

市内の療育センターにおいて、平成23年1月～平成23年5月の期間のうち計13回の布絵本の活用実践を行った。一人の幼児・児童に対して1～3回の活用実践を行った。実践内容の一覧

を表1に示す。

(2) 対象者

事前の観察実習で選定した5歳から8歳までの幼児・児童6名を研究対象とした。対象児の一覧を表1に示す。なお、本研究に際して、保護者に対して研究の趣旨を十分に説明し、紙面にて同意を得た。

表1 対象児一覧と実践一覧

| 事例 | 性別 | 年齢 | 有する障害 | ○：活用実践をおこなったもの | | | | |
|----|-----|----|---------|----------------|----------|-------|-------|-------|
| | | | | 実践番号 | 対象児 | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
| 1 | K.H | 女児 | 広汎性発達障害 | 実践1 | K.H(1回目) | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 実践2 | L.J(1回目) | ○ | ○ | |
| 4 | W.T | 女児 | ダウン症 | 実践3 | W.T(1回目) | ○ | ○ | |
| | | | | 実践4 | O.S(1回目) | ○ | ○ | |
| 7 | N.Y | 男児 | 広汎性発達障害 | 実践5 | N.H(1回目) | ○ | ○ | |
| 10 | O.S | 男児 | 脳性まひ | 実践6 | K.H(2回目) | | ○ | ○ |
| 11 | L.J | 男児 | 脳性まひ | 実践7 | N.Y(1回目) | ○ | ○ | ○ |
| 12 | N.H | 女児 | ダウン症 | 実践8 | O.S(2回目) | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 実践9 | O.S(3回目) | | | ○ |
| | | | | 実践10 | N.H(2回目) | ○ | | ○ |
| | | | | 実践11 | N.Y(2回目) | | | ○ |
| | | | | 実践12 | N.H(3回目) | | | ○ |
| | | | | 実践13 | L.J(2回目) | | ○ | ○ |

(3) 実践内容

作業療法士に依頼し、制作した布絵本を療育の活動の一つとして活用した。布絵本はステップ1、ステップ2、ステップ3の3冊用意し、幼児・児童の実態に合わせて活用した。

(4) 分析方法

布絵本の活用する様子を、保護者の了承を得て手元を中心にビデオカメラで撮影した。ビデオカメラの記録を元に、今回独自に作成した評価表を用いて評価を行った。幼児・児童の様子や評価表の結果を元に、衣服の着脱に関する支援のための布絵本の効用を分析した。

3. 評価表の作成

療育の場において、今回のような課題や行為の個人による遂行を評価する場合に用いられる評価法として代表的な物にADL評価法がある³⁾。ADLとは日常生活動作のことを指し、衣服の着脱はここに含まれる⁴⁾。今回は、その中でも本研究と同様に幼児・児童を評価の対象にしている点、衣服の着脱に関するいくつかの機能項目を用いている点、誰もが分かりやすい評価基準を設けている点などから、「PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法」⁵⁾を参考にして、本研究独自の評価表を作成した。

(1) 評価の概要

PEDIでは、衣服の着脱の動作を追って、更衣に関する機能的スキル項目を設けている。本研究では、布絵本の仕掛けに対する操作のひとつひとつをこれに該当させた。制作した布絵本の仕掛けや、予想される手指操作を挙げ、機能項目を設けた。また、PEDIでは、それぞれの機能的スキル項目に対して、できる(1点)、できない(0点)という評価がされている。本研究でも、それぞれの機能項目に対して、目的の達成を明確にするため、できる/できない、の評価を行いたいと考え、どのような評価基準で、できる/できない、を評価するのかPEDIの援助尺度を元に検討した。(図1)

| PEDIの更衣に関する介護者による援助尺度 | |
|-----------------------|---|
| 5=自立 | 介護者は身体的介助または見守りを行わない。 |
| 4=見守り /準備 | 介護者はその活動の間に身体的介助を行わないが、監視したり、言葉による指示を与えたり、セルフケア器具や物品を準備する必要がある。 |
| 3=最小介助 | 介護者は、ときおり支える。またはその活動の仕上げを手伝う程度のごくわずかな介助しか行わない。 |
| 2=中等度介助 | 介護者は活動の半分未満を行う。 |
| 1=最大介助 | 介護者は活動の半分以上を行う。子どもは意味のある手伝いをする。 |
| 0=全介助 | 介護者は活動のほとんどすべてを行う。子どもは意味のある手伝いをしない。 |

↓

| 本研究の評価基準 | | | |
|----------|-----------|------------------------------|---------------------|
| 4 | 自分でできる | 作業療法士の指示のみで、自分でできる。 | 指示のみ 身体的介助 あり |
| 3 | 仕上げを介助する | 作業療法士が仕上げ程度の介助を行う以外は、自分でできる。 | |
| 2 | ほとんどを介助する | 作業療法士がほとんどの作業を介助する。 | |
| 1 | 作業が未完了 | 作業が未完了、もしくは療法士がすべての作業を行う。 | |

図1 評価基準(できる/できないの基準となるもの)の設定

図1のように、PEDIでは6段階の援助尺度が設けられている。本研究は、療育現場の協力で、作業の一環として布絵本を活用しているため、作業療法士の見守りは必須であった。そのため、PEDIの自立という尺度は本研究には該

当しない。そのため、作業療法士が見守る中、口頭による指示のみにより、自分でできることが最も高い評価とした。次に、作業療法士が、身体的介助を行う場合を検討した。身体的介助とは、作業療法士が実際に手を出して作業を介助することをいう。PEDIでは、最小介助、中等度介助、最大介助、全介助の4段階が設定されている。しかし、本研究では、より分かりやすい評価基準にするため、身体的介助の設定を、作業療法士が仕上げ程度の介助を行う場合と、ほとんどの作業の介助を行う場合、作業が未完了もしくは作業療法士が対象児の代わりに作業を行う場合の3段階に設定した。仕上げ程度の介助を行う場合と作業が未完了である場合に該当しないものを、ほとんどの作業の介助を行うに該当させた。

以上をまとめたものが、資料1に示す本研究の評価表である。この評価表を用いて行う評価について、以下に説明する。

(2) 教育評価

教育評価とは、布絵本を活用している様子を観察して、①言葉を理解する、②動作を理解する、③集中して取り組む、④意欲的に取り組む、⑤楽しんで取り組む、の5項目について観察者の視点から評価したものである。

(3) 機能評価

機能評価とは、布絵本の中に取り込んだ手指機能を機能項目として設定したものを、自分でできる、作業療法士が仕上げを介助する、作業療法士がほとんど介助する、作業が未完了の4段階で評価したものである。あてはまる評価に○をつける。

(4) 達成評価

達成評価とは、機能項目の評価が自分でできる、作業療法士が仕上げを介助する、のどちらかで評価された場合、その機能項目が達成されたとみなしチェック✓をつけることをいう。また、機能項目は、機能の難易度や、衣服の着脱に関わる重要度によってB、A、Sの3つに分類した。Bの項目には、基本的な仕掛けの操作が含まれるものを分類した。Aの項目には、留め具の操作を含み、そのステップにおいてその機能を習得することを目的とした操作であるもの

表2-1 布絵本の観察記録

実践1 K.H
ステップ1 「ぼけっと」

| 布絵本 | 子どもの記録 (○行動・●発話) | 作業療法士の記録 (○働きかけ) |
|------|---|---|
| 表紙 | ○表紙をめくる。 | ○表紙をめくるよう促す。 |
| 1ページ | ○右下のポケットの中からゴムを引っ張る。 ○マスコットとマジックテープをくっつけたり、はずしたりする。 ○左ページのポケットのしかけも同様に、ひもを引っ張り、マスコットをつかみ、マジックテープにくっつけたり、はずしたりしたのち、元通りにマスコットをポケットの中に戻す。 ○真ん中の黄色いボタンを押して音を出す。 | ○マスコットをマジックテープに「くっつけたら、はずしたりできるよ」と手本を見せる。 ○音の出るポケットを指差し、「これはなんだろう。」と注意を促す。 |
| 2ページ | ○ポケットの中に手を入れ、お金を取り出す。 ○カエルの口の中にお金を一つずつ入れる。 ○お金に注意を向け、数字が書いてあることを確認する。 ○作業療法士がお金を見せる。 ●「これは偽物。」 ○チャックを開け、カエルの中からお金をすべて取り出したのちの手で確認し、チャックを閉め、お金をポケットの中に戻す。 | ○「数字が書いてないかな？見てみて。」と注意を促す。 ○「お金みたいになっているね。」と声をかける。 ○「本当だね、偽物だね。」と返える。 |
| 3ページ | ○ポケットからハンカチを取り出し、広げる。 ○洗濯バサミでハンカチをまむ。 ○ハンカチを洗濯バサミから外し、たんでポケットの中へ戻す。 | ○「よくできたね。」と声をかける。 |
| 4ページ | ○風呂敷を広げる。 ○チャックを開け、おかずを取り出す。 ○風呂敷の中央におかずを置き、風呂敷の端と端とめ、おかずを包む。 ○風呂敷を広げ、おかずを取り出し、ポケットの中へ戻す。 | |
| 5ページ | ○ポケットから靴下を取り出し、フックに引っかける。 ○ポケットから帽子を取り出し、右ページの穴に引っかける。 ○靴下、帽子を取り出し、ポケットの中へ戻す。 | ○「すばらしい。」と声をかける。 |

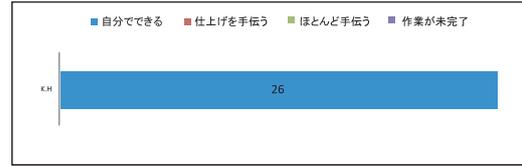


図2-1 機能評価の結果



図2-2 達成評価の結果

ら進んで布絵本に取り組んでいることが推測された。また、最後のページまで集中して取り組めた。

②機能評価による結果

機能評価の結果から、対象児がすべての機能について自分でできることが分かった。

③達成評価による結果

達成評価の結果から、すべてのレベルの項目を達成することができたことが分かった。Aの機能項目がすべて達成できたので、続いてステップ2の布絵本に取り組むことにした。

表2-2 記入した評価表

ステップ1 衣服の着脱に必要な手指機能を身に付けるための布絵本 評価表

| 機能項目 | 機能評価 | | | 達成評価 左の評価 4か3で チェック | |
|---------------------|--------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------------|----|
| | 指示のみ 自分で できる | 身体的手伝いあり 仕上げを 手伝う | 身体的手伝いあり ほとんど 手伝う | | |
| ポケットの中からマスコットを取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| ポケットを押して音を出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| 見本と同じマスコットをはりつける。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| ポケットのふたを開ける。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| ポケットの中からお金を取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| カエルの口の中にお金を入れる。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| ポケットの中からハンカチを取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| 洗濯バサミをつまむ。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| ハンカチを洗濯バサミで挟む。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓S |
| ファスナーを開けておかずを取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| おかずをハンカチの上に乗せる。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| ハンカチの端を握り、おかずを包む。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓S |
| ポケットの中から靴下、帽子を取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| 靴下のひもをフックに掛ける。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| 帽子のフックをひものすきまに掛ける。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| マスコットをポケットの中に戻す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| ファスナーを開けてお金を取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| ポケットの中にお金を戻す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| 洗濯バサミをつまむ。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| ハンカチを洗濯バサミから外す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓S |
| ポケットの中にハンカチを戻す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| ハンカチを広げ、おかずを取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓S |
| ポケットの中におかずを戻す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓A |
| 靴下をフックから取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| 帽子をフックから取り出す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| ポケットの中に靴下を戻す。 | ④ | 3 | 2 | 1 | ✓B |
| ※Aの項目すべて達成でステップ2 | | Bの達成数 11 | Aの達成数 11 | Sの達成数 4 | 4 |

教育評価

| 言葉を理解する | 動作を理解する | 集中して取り組む。 | 意欲的に取り組む。 | 楽しんで取り組む。 |
|---------------------------------------|---|--------------------|---|--|
| 初めと見本通りに 足指の指に付く お金の指に お金の指に | ファスナーを引く 洗濯バサミを引く おかずを包む お金の指に | 意欲的で、 集中して取り組む。 | 自分から進んで 次に手をとり お金の指に、 お金の指に お金の指に | ポケットの中を 探して、お金の指に お金の指に、お金の指に お金の指に、お金の指に |

はさんだりする動作に関しては、作業療法士の指示がなくても自分で取り組むことができた。次々にポケットの中からマスコットを出したり、ページをめくったりしている様子から、自分か

2) ステップ3

ひとりで衣服の着脱ができるようになるための布絵本 「きがえ」

表3-1 布絵本の観察記録

ステップ3 「きがえ」

| 布絵本 | 子どもの記録 (○行動・●発話) | 作業療法士の記録 (○働きかけ) |
|------|--|--|
| 表紙 | ○表紙をめくる。 | |
| 1ページ | ○引き出しをめくろうとしたが、作業療法士の声かけを聞いてくまの服を脱がす。 ○引き出しのマジックテープを外し、ズボンをしなす。 ○服を丁寧に整え、ハンガーに貼り付ける。 | ○「服を脱がせてあげようか。」と促す。 ○「ズボンを引き出しの中に戻すよ。」と指示をする。 ○「服はそのままハンガーに引っかけよう。」と指示をする。 |
| 2ページ | ○ズボンをハンガーから外す。 ○くまに知らせる。 ○次の服が気になって目標はズボンではなく、次のページをめくっている。 | ○「ズボンはかしてあげて。」と促す。 ○「次が気になるね。」と声をかける。 |
| 3ページ | ○服のファスナーを外し、ハンガーから服を取り出す。 ○くまに服を渡す。 ○チャックの先端を合わせる。 ○なかなか合わず、何度か試す。 ○作業療法士に先端を固定してもらい、あとは自力でファスナーをしめる。 | ○くまが動かないように、くまの頭を持って固定する。 ○ファスナーの先端を持って固定する。 |
| 4ページ | ○ポケットの中からくまを取り出す。 ○くまをはかせる。 ○新しいパターンズのズボンを見るが、服をはかせる作業を続行。 | ○「ズボンはこのままでいい？」と聞く。 ○「ズボンはこのままにしようか。」と声をかける。 ○くまの仕上げを手伝う。 |
| 5ページ | ○服をハンガーから外そうとする。 ○ボタンがなかなかはずれず、注意が手先でなくくまの顔にいく。 ○ボタンを外し、くまに服を渡そうとする。 ○前のパターンズの服の上から服を渡す。 ○作業療法士やカメラに向けて、驚きを見せたりくまを自慢げに見せる。 | ○「もう一回調整されるね。」と声をかける。 ○「くまが気になるね。」と声をかけながらまを離し、注意を手先で促す。 ○「そのままで渡す？服が着る？」と尋ねる。 ○「おしななだね。」とほめる。 ○「この有給おどろきだね？」と声をかける。 |

表3-2 記入した評価表

ステップ3 一人で衣服の着脱ができるようになるための布絵本 評価表

| 機能項目 | 機能評価 | | | | 達成評価 左の評価 4か3で チェック | |
|------------------|---------------------|-------------|-------------|------------|------------------------------|---|
| | 指示のみ | 身体的手伝いあり | | | | |
| | 自分で できる | 仕上げを 手伝う | ほとんど 手伝う | 作業が未 完了 | | |
| 表紙 | くまと布絵本を結んでいるひもをほどく。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| | スナップボタンをはずし、表紙をめくる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| 肌着 (マッシュルーム) | くまの着ている肌着(上)を脱がせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | くまの着ている肌着(下)を脱がせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 肌着(上)をハンガーに留める。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | マジックテープを外し、タンスを開ける。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| ズボン (マッシュルーム) | 肌着(下)をタンスの中に入しめる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | 長ズボンをハンガーから取りはずす。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | 長ズボンを履かせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| | 長ズボンのスナップボタンを留める。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 長ズボンのスナップボタンをはずす。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 長ズボンを脱がせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| 半袖 (ワンピース) | 脱いだ長ズボンをハンガーに留める。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| | 半袖をハンガーから取りはずす。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | 半袖を着させる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| | 半袖のファスナーをしめる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| 半ズボン (半ズボン) | 半袖のファスナーをあける。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 半袖を脱がせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 脱いだ半袖をハンガーにかける。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | 半ズボンをハンガーから取りはずす。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | 半ズボンを履かせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| | 半ズボンの紐ホックを留める。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| 半ズボン | 半ズボンの紐ホックをはずす。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 半ズボンを脱がせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 脱いだ半ズボンをハンガーにかける。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |

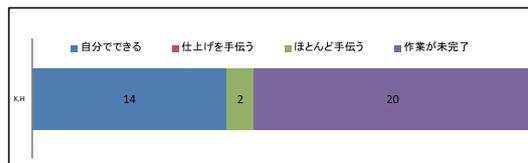


図3-1 機能評価の結果

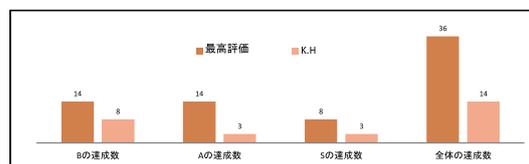


図3-2 達成評価の結果

③達成評価による結果

達成評価の結果から、機能項目B, A, Sのどのレベルの機能項目にも、作業が未完了、つまり取り組めていない項目があったことが分かった。布絵本の達成基準となるAの機能項目の達成数も少なく、ズボンや洋服を着せたり脱がせたりするなどの操作の中で取り組めなかった項目もあった。次回はもう一度、ステップ3の布絵本に挑戦することとした。

以上のように、すべての幼児・児童の活用実践の記録について評価表を用いて評価を行い、結果を明らかにした。

(2) 個人内評価による検討

すべての対象児は、1回～3回の実践を行っており、その実践の1回目と2回目の結果から、布絵本を繰り返し活用することでどのような変化が現れるのか、また、どのような効用が現れるのかについて追求した。ここでは特に変化の見られた実践者O.Sの事例を紹介する。

図4の機能評価の結果から、対象児は、ステップ1の布絵本の1回目の実践では、機能項目26項目のうち、5項目に支援を必要とし5項目の作業が未完了であったことが分かった。しかし、2回目の実践では、26項目のうち、24項目について自分でできるようになった。ステップ2の布絵本も同様に、1回目の実践よりも2回目の実践において自分でできる機能が増えた。これらは、実践を繰り返すことでその結果が良くなった事例である。さらに図5にステップ2の布絵本の具体的な機能項目について示した。色かけ

①教育評価による結果

対象児は、衣服の着脱に関する動作を理解しており、洋服をたたんだり、片づけたりすることが自然の流れでできたが、多少疲れてきている様子が見られた。また、自分の好みの洋服を選ぶことに集中して、すべての機能項目をこなすことはできなかったが、最後のページまで取り組むことができた。次のページをめくって新しい洋服が出てくるたびに、嬉しそうな表情を見せ、くまの着替えを楽しそうに行うことができた。

②機能評価による結果

機能評価による結果から、ステップ3の布絵本の機能項目36項目のうち20項目の作業が未完了であったことが分かった。

| 機能項目 | 機能評価 | | | | 達成評価 左の評価 4か3で チェック | |
|----------------|-------------------|---------------------------------|-----------------|-----------------|------------------------------|---|
| | 指示のみ | 身体的手伝いあり | | | | |
| | 自分で できる | 仕上げを 手伝う | ほとんど 手伝う | 作業が未 完了 | | |
| くまの洋服 (ズボン) | ポケットの中から靴を取り出す。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | くまに靴を履かせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 靴を脱がせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | 靴をポケットにしまう。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | ハンガーからベストを取りはずす。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| | ベストを着させる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| ベスト (ベスト) | 前ボタンを留める。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 前ボタンをはずす。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | ベストを脱がせる。 | 4 | 3 | 2 | 1 | A |
| | 脱いだベストをハンガーにかける。 | 4 | 3 | 2 | 1 | B |
| くまの洋服 (表紙) | くまと布絵本をひもで結ぶ。 | 4 | 3 | 2 | 1 | S |
| | ※Aの項目すべて達成でステップ完了 | Bの達成数 14 | Aの達成数 14 | Sの達成数 8 | | |
| 教育評価 | 言葉を理解する | 動作を理解する。 | 集中して取り組む。 | 意図的に取り組む。 | 楽しんで取り組む。 | |
| | | 衣類の着脱に関する動作を理解し、自分で着脱できるようになった。 | 自分で着脱できるようになった。 | 自分で着脱できるようになった。 | 自分で着脱できるようになった。 | |

してある項目は、その操作が自分でできた項目である。対象児は、1回目の実践では、鍵ホックに関する6項目のほとんどに支援を必要としていた。しかし、2回目の実践では、鍵ホックをはずす操作はすべて自分ででき、鍵ホックを止める操作にも挑戦することができた。

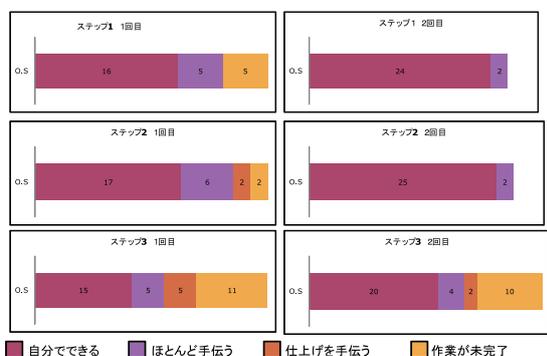


図4 O.S.の結果

| 1回目 | | 色かけ:自分でできる項目 | 2回目 | |
|-----------|---------------------|--------------|---------------------|--|
| グループAの女の子 | 髪のはなを取り外す。(A) | | 髪のはなを取り外す。(A) | |
| | 髪のはなを取り外す。(B) | | 髪のはなを取り外す。(B) | |
| | 髪のはなを取り外す。(C) | | 髪のはなを取り外す。(C) | |
| | ようぶくに髪のはなを取り付ける。(A) | | ようぶくに髪のはなを取り付ける。(A) | |
| | ようぶくに髪のはなを取り付ける。(B) | | ようぶくに髪のはなを取り付ける。(B) | |
| | ようぶくに髪のはなを取り付ける。(C) | | ようぶくに髪のはなを取り付ける。(C) | |
| グループBの女の子 | 目を取り外す。(A) | | 目を取り外す。(A) | |
| | 目を取り外す。(B) | | 目を取り外す。(B) | |
| | 目を取り外す。(C) | | 目を取り外す。(C) | |
| | ようぶくに目を取り付ける。(A) | | ようぶくに目を取り付ける。(A) | |
| | ようぶくに目を取り付ける。(B) | | ようぶくに目を取り付ける。(B) | |
| | ようぶくに目を取り付ける。(C) | | ようぶくに目を取り付ける。(C) | |
| グループCの女の子 | 花びらを取り外す。(A) | | 花びらを取り外す。(A) | |
| | 花びらを取り外す。(B) | | 花びらを取り外す。(B) | |
| | 花びらを取り外す。(C) | | 花びらを取り外す。(C) | |
| | ようぶくに花びらを取り付ける。(A) | | ようぶくに花びらを取り付ける。(A) | |
| | ようぶくに花びらを取り付ける。(B) | | ようぶくに花びらを取り付ける。(B) | |
| | ようぶくに花びらを取り付ける。(C) | | ようぶくに花びらを取り付ける。(C) | |
| グループDの女の子 | リボンを取り外す。(左) | | リボンを取り外す。(左) | |
| | リボンを取り外す。(真ん中) | | リボンを取り外す。(真ん中) | |
| | リボンを取り外す。(右) | | リボンを取り外す。(右) | |
| | ようぶくにリボンをつける。(左) | | ようぶくにリボンをつける。(左) | |
| | ようぶくにリボンをつける。(真ん中) | | ようぶくにリボンをつける。(真ん中) | |
| | ようぶくにリボンをつける。(右) | | ようぶくにリボンをつける。(右) | |
| グループEの女の子 | マジックテープを離して星を取り外す。 | | マジックテープの星を取り外す。 | |
| | 穴にひもを通して星の形を作る。 | | 穴にひもを通して星の形を作る。 | |

図5 ステップ2の布絵本の分析

その他の幼児・児童についても同様に個人内分析を行ったところ、ほとんどの対象児が1回目の実践より2回目の実践の方が自分でできる機能や達成された機能が増え、次のステップの布絵本に挑戦していることが分かった。今回は、ステップ3の布絵本を達成した児童はいなかったが、ステップ3の布絵本においても1回目の実践に比べ2回目の実践でできるようになった機能が増えていた児童が多くみられた。

(3) 留め具の活用による検討

ステップ2、ステップ3の布絵本は、機能項目が留め具ごとに分かれているので、それらの結果を元に、布絵本の活用が留め具にとってどのような影響を与えたのかを追求した。

図6の機能評価の結果から、ステップ2の布絵本の留め具の操作機能の変化の結果から明らかとなったのは2点であった。第一に、1回目の実践より2回目の実践の方が自分でできる操作が増えており、布絵本の活用には効果があるという点であった。第二に、児童にとって、マジックテープの操作は比較的容易な操作であるという点であった。また、スナップボタン、ボタン、ファスナーも布絵本の活用を通して自分でできる操作が増えていくことが分かった。それに対して、鍵ホックは、作業療法士の支援が必要であったり、作業が未完了であったりした児童が目立ち、児童にとって苦手であることが明らかとなった。

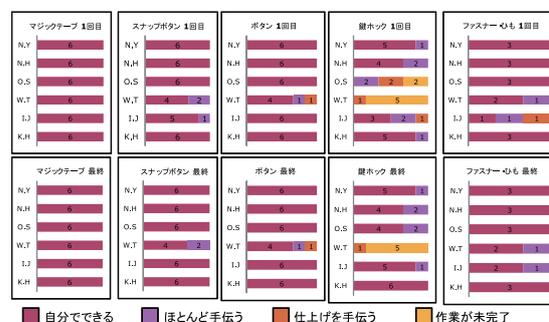


図6 留め具の活用結果

ステップ3の布絵本においても、留め具の分析を行ったところ、ほぼステップ2の結果と同様のことが明らかとなった。新たに明らかになった点は、留め具の操作の中で、「はずす」と「とめる」操作、「あける」と「しめる」操作の定着度、つまり、「脱ぐときに必要な留め具の操作」と「着るときに必要な留め具の操作」の定着度において、「着るときに必要な留め具の操作」のほうが「脱ぐときに必要な留め具の操作」よりも難易度が高いことであった。

3. 考察

個人内評価の結果から、布絵本は、何回か繰り返し操作を行ったり、継続して取り組むことによって、衣服の着脱に必要な手指機能を身につけたり、衣服の着脱に必要な手指機能を高めたりすることが可能になることが明らかとなった。布絵本は、一つ一つが手作りであるという特徴を持ち、それらを生かすことによって幼児・

児童の実態に合わせた工夫がしやすいと考えられた。また、フェルトなどの素材や仕掛けなどの創意工夫によって、幼児・児童の興味や意欲を引き出し、何度も繰り返し練習したり、継続して取り組んだりすることが可能であると考えられた。

しかし、今回ステップ3の布絵本を達成した児童がいなかったこと、つまり、一人で衣服の着脱ができるようになるための布絵本の開発においてその布絵本を達成した幼児・児童がいなかったことは、留め具の操作に関する支援のうち、鍵ホックとファスナーの操作について次のような課題があったからだと考えた。鍵ホックの操作においては、操作方法の分からない児や、何度も何度も繰り返して練習を行うがなかなか操作することができない児がいた。このような児に対しては、まず手指や手首を自由自在に動かす柔軟性を身に付ける練習や、手元を良く見るといふことに重点を置いた訓練をステップ1、ステップ2の布絵本の中で検討するべきであったと考えられた。また、ファスナーの操作においては、ほとんどの児童が左右に動かしたり、上下に動かしたりすることは可能であった。しかし、凹凸部分のかみ合わせを一人でできる児童はほとんどいなかった。児が、手元を良く見たり、左右の手を連動させたり、バラバラに動かしたりするなどの機能を高めるための仕掛けを工夫する必要があったと考えられた。

そして、留め具の活用による結果から、布絵本におけるマジックテープ、スナップボタン、ボタンの有用性を考えた。マジックテープはほとんどの対象児によって取り組みやすく、取ったりつけたりして楽しく遊ぶことができる仕掛けであった。また、多彩なフェルトやマスコットと組み合わせることにより布絵本の世界をさらに引き立てることができた。布絵本に親しむきっかけとして、マジックテープを最初のページに持ってきたり、所々に仕掛けたりすることによって、児童にとっての布絵本がより楽しいものになると考えられた。スナップボタン、ボタン、ファスナーの操作は、何度も繰り返し操作していくたびに児童がそれぞれの操作機能を身に付けていく様子が見られたことから、布絵

本の中に繰り返し活用できるような仕掛けにしたり、布絵本を繰り返し活用したりすることでその機能を高めることが期待できると考えられた。ボタンは、身の回りの洋服を思い浮かべても、大きさや形が様々である。基本的な大きさ、形のボタンの操作が可能になったら、少しでも多くのボタンに慣れ親しんだり、小さなボタン、掴みにくいボタンもとめたりはずしたりできるように取り組む仕掛けを取り入れることによって、さらに児童の衣服の選択肢が広がり、手指機能も高まるのではないかと考えられた。

このような布絵本の効用については、早瀬(1987)が、障害児の遊具としての布絵本を検討した結果から、布絵本の持つ温かく柔らかい感触やその色や形の美しさで子どもの興味・関心を引き出すと述べており、特にマジックテープは、その操作の簡単さ、はずした時の音が楽しめることや、触刺激を楽しめることから一番好評であったことを明らかにした⁶⁾。このことは、今回の布絵本の制作から得られた結果と同様であったと考えられた。

これらのことから、対象児一人一人の特性や、身体機能、興味に合わせて、布絵本を制作し使用することは、衣服の着脱などを獲得する上で重要であると考えられた。また、それらの実践活動を今回作成した評価表を用いて、客観的に評価することは、対象児の能力を分析することや、次の課題を選択する際の、重要な手がかりになる可能性が考えられた。

8. まとめ

本研究では、障害児の衣服の着脱に関する支援のための布絵本として、マジックテープ、スナップボタン、ボタン、ファスナー、鍵ホック、ひもの留め具の操作を中心とした3冊の布絵本を開発し、実践を行った。今回はステップを設定し、3冊の布絵本を活用したことによって、対象児の実態と課題に合わせて丁寧に手指機能を身につけたり、高めたりするための訓練が可能となった。また、評価表を作成して、活用実践の分析の際に用いることで、布絵本の効用が得られる過程をより客観的に分析し、対象児にとって達成できた内容や課題が明らかとなった。

このように布絵本による支援は、布絵本が持つ遊びの要素や独特の色、感触を生かし、幼児・児童の実態や課題に合わせることによって、楽しみながら衣服の着脱に関する訓練を行うことが可能であるということが考えられた。さらに、評価表の活用により、これまで布絵本の一つ一つの操作において、できる／できない、の判断があいまいであった点や、観察者の主観で判断しがちであった点を、対象児の技術の獲得やその過程を明確に把握できることが可能になったと考えられた。

今後は、布絵本を通して身につけた衣服の着脱に必要な手指機能や、留め具の操作に関する機能を、実際の衣服の着脱場面にどのように生かしていくかを検討する必要があると考えられた。

なお、本研究にご協力いただきました福富医院院長福富梯先生、あじろ診療所ひめゆり療育センターの先生方、児童ならびに保護者の皆様に書面にて御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 内藤愛 (2007) : 『衣服の着脱ができるように手指を使って遊ぶ教材・教具「らいおんマット」』 上越教育大学障害児教育実践センター紀要, 13, 59-60
- 2) 水谷亜由美ほか (2009) : 「感覚経験を豊かにする布絵本の制作とその教育的効用について」 岐阜大学教育学部研究報告, 教育実践研究 11, 121-136
水谷亜由美ほか (2009) : 「手指の巧緻性を高める布絵本の制作とその教育的効用について」 岐阜大学教育学部研究報告, 教育実践研究 11, 137-151
- 3) 岩崎テルコほか編 (2005) : 「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学」 医学書院出版 p.19
- 4) 岩崎テルコほか編 (2005) : 「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学」 医学書院出版 p.235
- 5) 里宇明元, 近藤和泉, 問川博之監訳 (2003) : 「PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価法」 医師薬出版
- 6) 早瀬伸子 (1987) : 「障害児の遊具としての布の絵本—障害児の文化的側面へ福祉活動を続けるふきのとう文庫の活動の結実として—」 北海道教育大学情緒障害教育研究紀要, 6, 85 - 92